

第1回 土岐市総合計画審議会 議事録

1 開催日時・場所

平成27年1月27日(火) 午前10時00分から
市役所3階 大会議室

2 次第

開 会

1. 市長あいさつ
2. 総合計画審議会について
3. 委嘱状交付
4. 審議会会長の選出
5. 審議会副会長の選出
6. 諮問
7. 第六次土岐市総合計画策定方針について
8. 第五次土岐市総合計画における主な取組について
9. その他(これからの土岐市のまちづくりについて各委員より提言)
10. 閉 会

3 資料

資料1 土岐市総合計画策定条例・土岐市総合計画審議会規則

資料2 総合計画審議会委員名簿・配席表

資料3 第六次土岐市総合計画策定方針

別紙1 計画策定スケジュール

別紙2 計画策定体制の相関図

別紙3 市民意識調査等の実施状況

資料4 第五次土岐市総合計画における主な取組

参考資料 ○第五次土岐市総合計画 改訂版

○土岐市統計書2012 概要版

○まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン・総合戦略」について

4 出席者

(審議会委員)

昇 秀樹 若宮 克行 山口 和雄 犬塚 和世 高井 哲雄 中根 達人

水野 健一 白石 文伸 井野 寛義 土本 浩義 土本佳代美 加藤 悟

小島 三明

(傍聴者) 2名

1. 市長あいさつ

皆さん、おはようございます。総合計画審議会委員を引き受けていただき、ありがとうございます。公募委員4名、各界の代表者、東濃振興局長、副市長で構成されています。

第五次総合計画は、私が10年前に担当課長であるときに策定しました。色々と反省しなければいけないこともあります。今は、当時と社会情勢が変わっています。地方自治法での位置づけが削除されましたが、市の方針を決めることは必要です。条例で市の方針を決めて、最上位計画と位置づけ、市政を運営していくことではじめてきました。大きく変わったことは、細かい計画に立ち入りません。総論賛成各論反対という意見がありますが、市民がどういう方向に向いていくか、バイブル的なものを作りたいです。

前回よりも委員の人数を減らしました。精鋭ばかりで、話し合いに丁度いい人数だと思っております。皆さんの経験を生かした意見をお聞きし、良い計画にしていきたいです。よろしくお願いします。

2. 総合計画審議会について

事務局より、資料1について説明。

3. 委嘱状交付

市長より、委員を代表して昇委員に委嘱状を交付。他の委員には机上に配付。

4. 審議会会長の選出

昇委員を審議会会長に選任。

<昇委員長あいさつ>

事務局にも申し上げたが、私は土岐市の実態をほとんど知りません。地方自治を専攻している関係、一般論は存じ上げています。実際、土岐市のことは白紙で、地元の委員の方々に実態をお聞きして良い計画にしていきたいです。ご協力をお願いします。

5. 審議会副会長の選出

白石委員を審議会副会長に選出。

6. 諮問

市長より諮問。

7. 第六次土岐市総合計画策定方針について

8. 第五次土岐市総合計画における主な取組について

事務局 資料3、資料4について説明。

A委員 確認させてください。このイメージ図は、これまでの総合計画は基本構想と基本計画と言っていましたが、今回の総合計画として策定するのは、基本構想だけと考えればよいでしょうか。

事務局 審議会で審議いただく部分は基本構想とします。実施計画については、庁内体制を整えた上で、基本構想に基づいて策定を進めていきます。

会長 昔、自治法で、市町村は基本構想を定めなければいけないとありました。3,200市町村が、有無を言わず基本構想を策定してきました。基本構想は10～20年の長期の構想で、それに基づき、基本計画を5～10年くらいで作り、その下に実施計画を3年位で作り、毎年の予算編成をしてきました。当時の自治省がマニュアルで通達し策定してきました。地方分権改革で義務付けが無くなりました。基本構想を作っても作らなくても良くなりました。従来は3段階で作るところや土岐市のように2段階で作るところが出てきました。

これとは別にマニフェストという議論が出てきています。選挙公約などで見かけます。元気な町をつくる、幸せな町をつくるというものです。これを具体的な数値目標に落とし込み、4年間で達成を目指します。もし、達成できなければ、市長が責任に問われます。しかし、世界情勢などの理由があり、達成できなかった場合は、市民に説明し、納得してもらえれば問題ありません。そういう手法が取り入れられています。日本全国の1割程度の市町村で、マニフェストと連動した総合計画を作っています。多治見市もそうです。市長の任期は4年です。基本構想を12年とし、実施計画を4年とするなど自由に決められます。

事務局の提案は基本構想10年、実施計画3年です。これまでどおり3年でも良いし、4年にしても良いです。議論していただければ良いです。

事務局 市長のあいさつにもありましたように、市長によって変わることなく、土岐市の将来像を持つべきという考え方で、基本構想は10年のままとしました。基本構想が8年というという観点があれば、実施計画は4年という案もあったと思いますが、それが無いこともあり、実施計画は現行の実施計画の期間と同様に3年としました。

会長 市長とも相談して10年、3年にしようと思ったのでしょうか。

事務局 そうです。

- B委員 五次総の取り組みについてです。どのように取り組んで、何が良く
て、何が悪かったのか評価したものを示して欲しいです。反省点が知
りたいです。
- 会長 前回の検証をして次に進むべきとの意見で、その通りです。
- 事務局 本日の資料は、主な取り組みを示しただけのものですが、ワーキン
グチームの中で 10 年間の振り返りを分析するので、それに基づく議
論をしていただけるようにします。
- 会長 主な検証結果を示していただいて、計画を作りたいです。
- C委員 別紙 3、市民意識調査があります。市民の回収状況、回収率が 21%
であり、市民の意識が低いです。市民の方が意識を持っていただかな
いといけない。どうしてでしょうか。回収方法などはどうなっていま
すか。
- 事務局 平成 21 年度から毎年度、2,000 人を対象にして意識調査を実施し
ています。毎年、毎年、同じような調査をしていることも原因かもし
れません。また同じ手紙が来たという、電話を受けた事もあります。
- 会長 郵送による配布・回収なのでしょう。
- 事務局 回収には、返信用封筒を同封するなど、市民に負担がかからないよ
うにしています。各課から、市民に聞きたいという事で、設問が多く
なりました。設問が多く、回答に戸惑い、手間があつたのかもしれま
せん。また、年末年始に調査を実施したことも、原因になっていると
考えられます。
- 会長 毎年意識調査をしておりますので、過去のデータも使えると思いま
す。恒常的な質問も含まれているので、それも活用していきたい。
- 事務局 中学生の回収率は高いが、これは学校を通じて行ったのでしょ
うか。
- 事務局 教育委員会（学校教育課）を通じ、学校にお願いして調査を実施し
ました。教育の一環としてアンケートに取り組む時間を設けていただ
くなどにより、回収率は高くなっています。保護者に対しては、生徒
を通じて調査を実施し、半分程度の回収となりました。若い人の意見
を多く聞けました。
- 会長 市民意識調査で、例年、20～40 代からの回答率が低いのですが、
そこを補えていると思います。調査票は、市民意識調査のものと中学
生の保護者のものとは同じ設問となっております。
- 事務局 アンケートで金券を送るところもあります。それがいいか悪いかと
いう議論もあるかとは思いますが、回収率を上げたいときには、そう
いうこともしていただけたらと思います。

- D委員 将来像のトレンド、10年後ということで、地方創生でも長期のトレンドを見て議論されています。10年計画だが20年、30年後を見据え、10年で何をすべきかを議論することが必要だと思います。
- 県の総合計画にも関わっている中で、個々の職員が計画を作るプロセスが大事です。職員の方が総合計画を作った意識、実行していく意識を持っていただきたいです。
- 事務局 職員にはアンケート調査も行います。計画について、個々の職員が関われるような仕組みにしたいです。
- 事務局 計画を策定していく年代の方で中心になっていくのは、検証をしていただける方だと思っています。そういった方の意見を頻繁に聞いていきたいです。
- 会長 資料3、2枚目、H28～H37とあります。平成のあとに括弧書きで西暦を入れて欲しいです。2020年に東京オリンピックが開催され、2025年に団塊の世代が後期高齢者になります。75歳以上になります。本当の問題は2025年、平成37年以降に起こります。福祉の計画を作るときに、2030年頃まで見通して計画を考えることが必要です。税金を払う人が急減し、税金で支えなければいけない人が急増します。財政的には2025年ではなく2026年、27年、28年を乗り越えなくてはなりません。それをきちんと想定にいった計画を作らなければいけない。また、2027年にはリニアが開通することも認識することが必要です。

9. その他（これからの土岐市のまちづくりについて各委員より提言）

- C委員 自治会の代表としております曾木町の水野です。小さな町、曾木町ではSSK、農地の活用、空き家対策、観光を推進しています。その中でも、バーデンパークの下のライトアップが国際的に有名になりました。中国、韓国から沢山観光で来ていただきました。小さな町でも団結力を持ってやっていきたいです。
- 地方創生が謳われており、各町内の問題点、やりたいこと、地域の声を吸い上げて、特色あるまちづくりをしていきたいです。
- B委員 土岐商工会議所の副会頭をしております。会員の60%が窯業です。衰退をしています。メーカーと商社は比較的やっていけるが、中間の、土を掘り始めるまでの費用がかかり、事業をやる人がいなくなっています。土岐市は、名古屋の衛星都市になってきています。いろいろな産業が来ることは良いが、この地に骨を埋めるわけではありませんので撤退も多くあります。

ここには、1300年という歴史の美濃焼産業があります。日本の食器の50%の生産をしています。特徴を生かして、育てていく工夫が必要だと思います。

セラテクノはあるが、産業の付加価値化に貢献していません。商工会議所も地場作業の活性化に取り組む覚悟を持っていきたいです。今度の計画の中には、実効性があり効果が上がる施策を入れたいです。

駄知地区では小売商業者がいなくなっています。泉もシャッターが閉まって、中心市街地とは恥ずかしくて言えません。小売機能をどうしていくかも大きな問題です。考えていきたいです。

会長 小売の問題は解決策を書けることがよいが、仮にきちんとした解決策が無くても、問題として認識し、計画に書いていくことが大事です。そういう問題は多くあります。問題としてそういうことがあるというのを、住民に意識してもらうのが大事です。

E委員 社会福祉協議会です。地域福祉を中心に取り組んでいます。ボランティアの課題があります。各地区に拠点の場所を作って欲しいという要望が多いです。公民館事業と連携しているものも多いです。自由に使える拠点づくりをして欲しいです。

総合計画は行政だけの計画ではなく、市民を交えた計画にしていかななくてはなりません。意識が薄く、アンケートの回収が少ないというのは、土岐市は行政に頼んでやってもらう意識が強いです。計画をつくるにあたって、市民が自分で動けるというアピールも大事だと思います。これからの福祉のことを考えると、若い人が流出して財政的に困難になることが予想され心配です。

F委員 青年会議所の代表です。青年会議所は20代30代の会員で構成されています。青年会議所は明確なビジョンがあります。能動的な市民となるために成長する場を提供するという明確なビジョンがあります。

20年前は100人、10年前は40人、現在は15人です。10年後20年後の将来が憂慮されます。参加していただけて無い、現状がありません。青年会議所として、人数が少なくても一生懸命やりますが、まちづくりは人づくりと言われるように、人を作る、人を成長させる段階として、誰かがこれに携われる人を作っていきたいと思っています。

会長 会員が少なくなっている要因ですが、20代30代の人口減少と、20代30代の人々の商工業者の減少、どちらが多いですか。両方ですか。

F委員 両方ですが、若い人が仕事を継いでいません。精神的、経済的に余裕が無いというのもあります。

会長 それは、まちの先行事業となりますね。

G委員 P T A連合会の代表の土本です。中高生の子どもを持つ母親として、4年後のイオンモールの開業を楽しみにしています。駅前の活性化が悲しい状況です。駅前に若い子が行けるお店があると良いと思います。よろしくお願いします。

A委員 教育委員をしております。教育振興計画の見直しの作業中です。前回の後期基本計画の審議会でも公募委員で参加しました。

現在の土岐市の町の方向性は焼畑農業をイメージします。ここがだめならあっち、まただめならこちらというように感じます。当面の雇用確保という事で、企業誘致も大事だと思いますが、業績が悪くなれば、撤退など怖い面もあります。

行政の本筋は、どんなまちにするのかをイメージできる目標が大事だと思います。手伝いたい市民はいっぱいいます。しかし活用できていないです。協働が大きなテーマです。例えば、住宅地では、花いっぱいのもちというイメージがあれば、花壇を作る人が出てきます。理想像を提案することが大事だと思います。

新たな土岐方式を作っていけるようにしたいです。市民に伝わっていけるもの、協働まちづくりマニュアルのようなものを作りたいです。市民が協力できる項目が明確なものと、市の方向性が明確なものを作りたいです。変えたいもの、続けたいもの、辞めるものの方針が分かる総合計画にしたいです。

会長 島根県の海士町の計画を取り寄せて、次の回に皆さんに見せてください。非常に読みやすく、絵がいっぱい入った、住民と一緒に作った計画です。こういう計画もあるのだということを知っていただきたい。変えたいもの、続けたいものという視点は良いです。ぜひ取り入れたいです。愛知県の刈谷市の計画も取り寄せてください。全ての項目に市民との協働の考え方が入っています。市民は何をするのか、市は何をするのかということが全ての項目に入っている。国の法的な拘束力が無くなったせつかくの機会であるので、いろいろなやり方にチャレンジするプロセスが大事です。そのプロセスを市民にも知る機会を作って欲しいです。それによって、参加する市民も増えるかもしれません。市民にも参加してもらおうと、市民にも一端の責任がうまれます。市民を巻き込んで、ムーブメントを起こしていくことが大切です。

D委員 東濃西部、土岐だけでなく瑞浪や多治見にも言えるが、市内の隣町に行くのに、峠を越える必要があります。峠は時間的な距離、心理的な距離があります。距離を縮めるような考え方を盛り込んで、それが施策になっていくと良いと考えます。

- H委員 下石町の出身です。名古屋へ通勤していました。陶磁器産業関連の仕事をしていました。日本の粘土は世界一優れています。これを超えるものはありません。東濃地区の粘土は世界最高です。チタンが少し多めに入っています。大きめのものを 1300 度で焼きしめると非常に良い働きをしています。陶磁器産業は衰退の一途ですが、最高の宝物であることを念頭において、計画立案に反映して欲しいです。
- I委員 市内で生まれ、育ち、嫁ぎ、土岐市が好きです。もっと発展して欲しいと思っています。駅前の衰退は残念に思います。簡単にはいかないが、空き店舗を利用して、陶磁器を売ったりすることが女性には関心があります。駅前に昼間でも平日でも人が集まるようになれば、活性化になります。ろくろ体験、絵付け体験などもできたらいいなど、女性目線で思います。
- 会長 大分県の豊後高田市では、昭和のまちづくりで成功しています。できるかどうかは別として、できるとしたらと考えて、具体的な検討をして欲しいです。できないなら、地元の地権者が問題なのか、何が要因か検討したらいいと思います。
- J委員 10年前にも参加しました。多くの委員がいましたが10年後に何人が残っているのかと感じていました。10年間、自然観察を続けています。土岐市にはシデコブシがあります。スローガンをみんなで考えると会長に言われて、「暮らしを支える緑のエコ共生の大地 土岐市」とスローガンを提案しました。当時は、エコや共生は、消極的なイメージがありました。やきものも共生の時代に入っていると感じています。有田なども敵ではなく、仲間として陶器ブームを起こしていけたらと思います。窯場めぐり 100選など、共同でイベントをやってみるのも面白いです。国際的に見て、やきものの魅力は、世界の人を集められます。共生の観点で、これからの10年間を見ていくことが重要だと思います。
- K委員 駄知からの公募委員です。市でできることは限られていると思います。内閣が一番取り組まなくてはいけないことは少子化対策と教育です。元気な若者がたくさん育たないと、将来の日本が明るくなるとは思えません。しかし、高齢者を支えながら、子育てするのは、難しいです。
- 国政レベルでやるならば、子育てをされていない方に課税をする、次世代育成税の導入を考えます。誰かが育ててくれた人に、将来世話になるのだから、税をかけて、その税収入を大学教育の無償化に当てるなどしても良いと思います。

土岐市で育てた子が戻ってくることは難しいです。戻ってきてもらうために奨学金制度を考えました。土岐市で生まれた方には奨学金を出します。市外に出て市外の会社で働く方には、一定の利率で返してもらえればいいです。市外の会社で働いても、土岐市に住めば半額免除、市内に住み、市内で働けば全額免除というものです。ぜひ、調べていただきたいのが、大卒の人が土岐市に住んで、一生にどれくらい税収に貢献してくれるかです。

地方は、人材を育てる役割だけで、子どもが労力として育ったとき、都会に持っていかれてしまいます。インキュベーターなりの戦略を持たないといけない。戻ってきてもらえる作戦が必要です。

土岐市は保守王国です。右肩下がりの時代には、前年踏襲型ではだめだという意識を持ってしてやっていかなくてはなりません。庁内ベンチャーを育てる仕組みも欲しいです。仮に失敗しても評価するなどの仕組みを作ってほしいです。

会長

奨学金の話は面白い。自治大学がそのような仕組みになっています。市民から提案されたものをどんどん取り入れていくような仕組みであるべきだと思います。

L委員

副市長です。過疎化、高齢化に悩んでいます。5年前に総合計画の変更時の担当でした。苦労したが良い経験になりました。

職員自身の自覚が必要です。職員が計画策定に参画し、職員が総合計画を知らないということが無いようにしたいです。

会長

皆さんの意見を反映して、良い計画を作っていきたいです。

10. 閉 会

事務局より次回審議会の日程連絡 3月中旬

(午前11時55分閉会)

以上